



# News Letter

発行責任 日本クリティカルケア看護学会 広報委員会  
【一般社団法人 日本クリティカルケア看護学会事務所】  
〒162-0833 東京都新宿区筆筈町43 新神楽坂ビル2階  
TEL : 03-5946-8847 / FAX : 03-5229-6889  
E-mail : jaccn@supportoffice.jp

## 目次

1. 新代表理事挨拶 (宇都宮 代表理事)
2. 第19回日本クリティカルケア看護学会学術集会を終えて (佐々木 集会長)
3. 委員会報告 (COVID-19対策委員会、広報委員会)
4. 編集後記

## 1. 新代表理事挨拶



宇都宮 明美氏

(関西医科大学 看護学部 看護学研究科) と思います。

このたび、本会第10期体制において代表理事を拝命しました、宇都宮明美でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本会は、2004年に設立され、来年には20年を迎えます。設立時に「クリティカルケア看護とは、あらゆる治療・療養の場、あらゆる病期・病態にある人々に生じた、急激な生命の危機状態に対して、専門性の高い看護ケアを提供することで、生命と生活の質（QOL）の向上を目指す」と定義され、クリティカルケア看護領域の研究者や実践者が、それぞれの立場でキュアとケアの統合を検討してきました。20年で患者の疾病構造は変化し、医療体制は多職種連携や地域包括ケアシステムへと変化しています。パンデミックも経験し、看護の力を再認識もしました。重症化予防や早期回復の援助、苦痛緩和、希望や尊厳の保持という課題に向けて、「患者」ではなく、「病をもつ人」や「病をもつ人と生きる家族」に焦点をあてて、看護実践を発展させていくために会員の皆様とともに活動を推進してまいりたい

歴代の代表理事をはじめとする理事会の皆様、会員の皆様の活動で本学会は常にクリティカルケアをアップデートしてきました。今後も社会の情勢を視野に入れつつ、迅速に対応すべき課題には迅速に、深く思考すべき内容は検討を重ねる学会でありたいと思っております。

学会内外の皆様からの忌憚のないご意見、ご指導、ご支援を賜り、日本クリティカルケア看護学会のために尽力したいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 2. 第19回日本クリティカルケア看護学会学術集会を終えて



集会長 佐々木 吉子氏（東京医科歯科大学大学院） 著者 前列中央

このたび、7月1～2日に、タワーホール船堀（東京都）にて、学術集会を開催することができました。新型コロナウイルス感染症は5類となりましたが、都内でも徐々に感染者数が増加傾向にあり、心配しておりましたところ、2日目午後までに1700名を超える方にご参加をいただくことができました。これも一重に、綿密に企画や事前準備をしてくださった皆様、きめ細やかに気遣いながら当日の運営・進行に関わってくださった皆様、丁寧な準備をいただいたセッション演者、座長の皆様、時間をつくり一般参加してくださった皆様、そして現場に残り守って下さった皆様のお陰であり、関係する全ての方に心より感謝を申し上げます。

集会のテーマは「グローバル時代における持続可能なクリティカルケア看護の探求」としました。企画委員・運営委員のメンバーは、このテーマに照らして演者、座長を人選し、有機的なディスカッションとなるようセッション内容を熟考してくださり、地球規模で経験されている、あるいは予測されているクリティカルケア領域の課題に対し、多様な切り口から、良質なクリティカルケア看護を持続するための議論ができた実感しております。この議論の続きは参加者がそれぞれ施設に持ち帰り、さらに発展して下さると期待しております。

私にとっては、集会準備と代表理事業務を掛け持つ2年間であり、それぞれに至らぬ点が沢山ありましたが、多くの方にお力添えいただいたお陰で、両方の役割をなんとか務め上げることができました。

**本当にありがとうございました。**

同様に宇都宮先生もこの2つの役割を担っていかれます。皆様には引き続き、宇都宮代表理事および第20回学術集会長を支えていただき、学会活動ならびに学術集会に変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



代表理事と集会長のバトンタッチ

### 3. 委員会報告 COVID-19対策委員会



#### クリティカルケア領域におけるCOVID-19への対応を振り返って

「重症呼吸器疾患の流行」を、対岸の火事と思っていた2020年1月。2ヶ月後には、横浜港の客船にDMATが出動し、数名の陽性重症患者が当院へ搬入されました。「低酸素脳症を起こしてもおかしくない画像所見だが、意識レベルが清明なのが合点いかない」と、医師も違和感を感じながら手探りの治療が施されました。その後も、感染防御用具や医療機器不足などの危機的状況、厳重な面会制限、医療者への中傷、相次ぐクラスター発生など、これまでの生活では予想しなかった事態に、世界中の誰しもがゆさぶられ続けた3年間でした。

COVID-19対策委員会は、5類感染症への移行を受け、2022年度にて終了の運びとなりました。当委員会は、COVID-19対策特別プロジェクトを経て委員会となり、いくつかの示唆を提示して来ました。2020年4月には、「COVID-19重症患者実践ガイド」、翌5月には、日本集中治療医学会と共同で「ICUにおけるCOVID-19患者に対する看護Q&A」と、多くの医療者が情報を渴望する中で、いち早く正確な情報を提示しました。現在は、COVID-19初期のバーンアウトに関する研究と、COVID-19陽性患者の復職に関する研究を実施し採択を待っている状況です。

今回のCOVID-19による経験は、感染対策の重要性のみならず、多くの倫理的課題、面会や実習のあり方、重症者対応ができる医療者育成の重要性、罹患後の後遺症対応など、多岐に渡る課題が浮き彫りとなりました。また5類感染症へ移行した現在、数年ぶりに麻疹やインフルエンザが流行し、いかに感染対策が重要であるのか、改めて痛感させられる事態となっています。

医療の最前線を担うクリティカルケア領域の看護師は、多様な危機的事態に直面する機会も多いと思いますが、今後も自らの心身の安全を守ることを忘れずに使命を担っていただきたいと切に願っています。

COVID-19対策委員会 委員長 藤野智子

### 3. 委員会報告 広報委員会

#### クリティカルケア看護の魅力を発信したい

広報委員会は主に学会ホームページの掲載情報の管理、SNSの運用を行って参りました。しかしながら、広報委員会の活動は積極的な広報活動とは言えず、委員会の中で「広報とは何をすべきか」の問いについて検討を重ねておりました。

そのような中、学会の顔となるホームページのリニューアルに携わることができました。ホームページのリニューアルは、魅力的なクリティカルケアをどのように広めるか、どうしたら伝わるか、何を伝えるかなどを考えるきっかけとなりました。様々な疑問を解決するため、委員会メンバーと議論した結果、皆様に多くの情報を発信していくことが必要である、と結論づけました。

その第一歩として、7月1日・2日に開催された第19回日本クリティカルケア看護学会学術集会において、交流集会を開催させていただきました。「クリティカルケアの魅力を語ろう」というテーマにおいて議論を深めたいと考え、教育や看護管理、そしてCNSの立場から魅力を語っていただきました。非常に多くの方に参加していただき、魅力を考えるきっかけになったのではないかと考えております。



JACCN広報委員会メンバー 学術集会にて

今後、広報委員会ではクリティカルケアをより多くの方に知っていただくために、動画配信を考えております。動画配信については、現在企画段階中ではありますが、近いうちに皆様へお届けできると思っております。会員の皆様には広報委員会の活動に関心をお寄せいただき、広報活動にご理解・ご協力いただけますと幸いです。

広報委員会 委員長 森一直

### 4. 編集後記

本会は第10期体制となり、新たな代表理事のもと、各委員会も新体制で活動を始めました。一方で、第19回学術集会が盛会のうちに終了し、COVID-19対策委員会は5類感染症への移行を受け、今期にて終了の運びとなりました。

様々な「はじまり」と「終わり」に、何かもの寂しさを感じつつ、しかし一歩ずつ確かなクリティカルケア看護の足跡をNews Letterを通じて実感しています。

広報委員 中嶋武広

広報委員会 委員長：森一直 担当理事：茂呂悦子  
委員：池辺諒、中嶋武広、渡海菜央、森安恵実、劔持雄二